



—東地中海地域ニュース—

レバノン：米国バイデン副大統領のレバノン訪問

(5月22-25日付現地報道)

22日、バイデン副大統領はフェルトマン米務省近東局次官補代行らを伴い、レバノンを短時間訪問、スレイマーン大統領、ベリ国会議長及びシニオラ首相と会談したほか、多数派3.14グループの政治指導者らと非公式会談を行った。同副大統領の今回訪問に関する25日までの現地報道取りまとめの概要は以下の通り。レバノンを米国副大統領が訪問したのは26年ぶりとなる。

1. スレイマーン大統領との会談においてバイデン副大統領は、米国によるレバノンの主権、自由、独立への支援を表明し、自由な国会総選挙が行われるよう期待すると述べた。また、国軍を指導するスレイマーン大統領の勇気及びテロとの対決において治安維持に果たすスレイマーン大統領の役割を称えるオバマ米大統領の評価を伝達した。米国により供与されたM60式戦車及びヒューイ型ヘリコプターの前で行われたムッル国防相との共同記者会見においてバイデン副大統領は、2007年夏にナフル・エル・バーリド・パレスチナ難民キャンプでイスラム原理主義者と3ヶ月にわたる戦闘を繰り広げた国軍兵士の勇気を称賛し、米国がレバノン国軍に対して必要な武器を供与すると述べた。
2. スレイマーン大統領との会談後の共同記者会見においてバイデン副大統領は概要以下の通り述べた。
 - (1) 米国はレバノンの主権を支持し、レバノンの民主的な制度や組織を支援するために全力で支援する。確固たる制度や組織なくして民主主義は強力なものとはなり得ない。レバノン国民の意思を反映する自由で公正な透明性のある選挙が行われる事を期待する。自由で公正な透明性のある選挙が行われる事は、レバノンの安定に資する。レバノン政府が具体的にどのように構成されるかは、レバノン国民が決定すべき事である。
 - (2) 国会総選挙の新内閣の構成及びその政策について再評価を行い、米国の具体的な支援計画を見極める事とする。
 - (3) 米国は、レバノンを含む全ての人々が裨益する中東地域における包括的な和平にコミットしている。自分（バイデン副大統領）は、安定した強いレバノンなくして地域の和平を想像できない。
3. スレイマーン大統領は会談後、83年以来初めてとなる今回の米国要人の訪問を歓迎し、概要以下の通り述べた。
 - (1) 米国のレバノン支援、特に国軍に対する支援に感謝している。
 - (2) パレスチナにおける占領地が解放され、権利が実現されて公正な包括和平が達成されるように期待する。アラブ和平イニシアチブこそがイスラエルにとって、アラブ・イスラエル紛争の解決に至る唯一の道である。いかなる形であれパレスチナ難民のレバノン定住は拒否する。
 - (3) レバノン南部の状況及び国軍とUNIFILとの現在の協力関係、及びイスラエルによるレ

バノンに対する継続的な主権侵害、特に明白な国連安保理決議 1701 違反であるスパイ網の摘発についても話し合った。自分（スレイマーン大統領）はバイデン副大統領に対し、イスラエルが計画している大規模な演習に対するレバノンの懸念を伝達するとともに、国連安保理決議 1701 の全条項の履行が確保されるよう十分な支援が与えられるよう望んでいる事を伝えた。

4. ヒズボラは 22 日、バイデン副大統領のレバノン訪問に関して以下の内容の声明を発表した。

(1) 米国がレバノンに高い関心を寄せている事は、裏に本当の理由があるのではないかとの強い懸念を生じさせる。特に米政権高官による累次のレバノン訪問は、レバノン問題に関する明らかな介入である。

(2) ヒズボラは、米国がレバノンよりもパレスチナ問題を優先し、イスラエルの国益及びそのために圧力を行使して譲歩を引き出す事を絶対的に優先する一方、中東地域の国民が抱える問題と真の要求は、米国によってまず最初に犠牲にされ、最後まで関心が払われない事に注意を喚起する。

(3) ヒズボラは、米国が引き続きシオニストと国益を一致させるべく執心していることを非難し、スレイマーン大統領をはじめとするレバノン政府当局に対し、スパイ網の問題及びレバノン領内におけるイスラエル支配の継続等を問題提起するよう求める。また、バイデン副大統領及び米国関係者は、占領されているレバノン領をその主権下に返還する事に関心があるかを糾すものである。

【補足情報】

レバノン・米国関係（米国の要人来訪、2009 年 1 月～現在）

- 2009-02-18 米国のジョン・ケリー上院外交委員会委員長は、レバノンを訪問、スレイマーン大統領及びシニオラ首相と会談した。
- 2009-03-04 シリアを訪問予定のジェフリー・フェルトマン国務次官補代行とダニエル・シャピロ・ホワイトハウス職員はレバノンを訪問、ハリリー議員らと会談。
- 2009-04-26 米国のクリントン国務長官は、レバノンを訪問、スレイマーン大統領と会談した。同長官は、レバノンでの諸外国の介入から自由な選挙の実施を支持するというオバマ大統領からの書簡をスレイマーン大統領に手渡した。また、同長官は、6 月 7 日に実施される選挙の結果予測を避けつつも、穏健な方向に向かうことを希望すると発言。
- 2009-05-08 米国のデイビッド・ヘイル国務次官補補佐（元駐ヨルダン大使、シリアを訪問したジェフリー・フェルトマンの部下）は、レバノンを訪問、サアド・ハリリー国会議員と会談。ヘイル補佐は、レバノンを犠牲にする形でシリアもしくは他の人々と何らかの取引に応じることはないと言った。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799